

出題分析		
試験時間 90分 ^{※1}	配点 ^{※2}	大問数 4題
分量（昨年比較）〔減少 同程度 増加 〕		難易度変化（昨年比較）〔易化 同程度 難化〕
【概評】 大阪大学の英語（外国語学部以外）は、Ⅰ英文和訳、Ⅱ長文読解、Ⅲ自由英作、Ⅳ和文英訳の4つの大問から成る。Ⅰでは、4～5行程度の英文を和訳する問題が2問出題される。Ⅱでは、選択問題も出題されるが、記述問題で内容説明が出題されることが多い。今年も下線部和訳の出題はなかった。指定語数は、今年も80語だった。Ⅳでは、3行程度の和文を英訳する問題が学部共通で1つ、もう1つは文学部で4～5行、文学部以外で3行程度のものが出題される。		

※1 文学部は105分。 ※2 学部・学科などにより異なる。詳細は募集要項参照。

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
Ⅰ	英文和訳 (A) 「人間の社会的能力の起源」 ○ 92 [下線部:55] 語 (昨年) 81 (40) 語	(A) 人間に際立って現れている社会的能力は、起源をたどれば、人間以外の動物にも見られるということ述べた文章。regarding は前置詞で「～に関して」。, which は先行詞が前文となっていること、led O to V の第5文型が見抜けるかがポイント。	(A) 標準
	(B) 「小説と歴史」 ○ 53 [下線部:53] 語 (昨年) 92 (47) 語	(B) 小説の場合とは異なり、現実の歴史の流れの中での目覚めは往々にして遅すぎると述べた文章。scales はここでは「鱗 ^{うろこ} 」の意。文脈が希薄で読み取りが難しいかもしれないが、plots from history は歴史小説の筋書きではなく、実際の「歴史の流れ」を指すものと解釈できる。	(B) 難
Ⅱ	長文読解 「人間以外の動物が作るものを芸術と見なせるか」 ○ 語数：1079 語 (昨年) 711 語	人間以外の動物が作るものを芸術と見なせるかについて具体的な例を挙げながら述べた文章。設問(3)の内容説明は下線部の直後に:(コロン)があり、これ以降が該当箇所であると判断できる。設問(4)は、下線部の would の後に省略されている内容を考えればよい。設問(5)は、去年の 40～50 語程度の英語での内容説明から、語数は変わらず、英語で自分の考えを述べる問題に変わった。	標準

設問別講評			
III	自由英作文 『ポスト真実』時代に求められる知性と技能	個人の感情が事実よりも重視されるというポスト真実(post-truth)の時代において、学問の探究を通して修得すべき知性や技能は何かを述べる問題。解答では「批判的思考」が習得すべき技能とし、それを養うことが健全な民主主義に不可欠だと繋げた。具体例には、時事問題になっているフェイクニュースを取り上げた。	標準
IV	和文英訳	(A) 「個人差が大きい」は、解答例では, varies widely among individuals, 「人によって」は, depending on the individual とした。 (B) (イ) 「わたしをわたしとして認知してくれる」などが難所。 (ロ) 「ひらめき」や「 ^{いきぎよ} 潔い ^{あきら} 諦め」などが難所だが、それぞれ inspiration と a willingness to give up とした。	(A) 標準 (B)(イ) 標準 (B)(ロ) やや難

設問構成（設問数・形式・内容）												
大問番号	設問数	選択式						記述式				
		同義選択	空所補充	内容説明	内容一致	主旨把握	その他	和訳	内容(理由)説明	自由英作	英訳	その他
I	2							2				
II	5	6		3					2	1		
III	1									1		
IV	2										2	

合格のための学習法

下線部和訳、長文読解、自由英作文、和文英訳と国公立大学型入試問題のほぼすべての形式が出題される阪大英語で合格点を取るには、英文の内容を正確に読み取る力と日本語の意味を正しく伝える英文を書く力を身につけることが必須である。まずは1年を通して難易度の高い英文を一語一句おろそかにせず、正確に解読し、実際鉛筆を持って訳文を書く訓練を積んでいくこと。同時に標準的な和文英訳問題に取り組み、正しい英語を書く力を鍛えていこう。夏期講習からは長文読解問題を時間内に要領よく解く練習と自由英作文の基礎練習も取り入れよう。2学期以降は、過去問を時間内に解く練習を中心に、正確な語彙力、文法的知識、構造分析力、文脈把握力を習得しつつ、日英双方の正しい表現力を鍛えていってほしい。知らない語句の意味を前後関係から類推する練習も積んでいこう。